



ロクロの挽き方は千差万別です。各産地の伝統的な引き方、その人の癖、道具による違い10人いると10通りの引き方があります。

深大寺陶芸教室では、ごく基礎的な引き方を、お椀型で説明します。手が慣れてきたら、自分なりの挽き方を身につけて下さい。

※指先を使います、事前に爪を切っておきましょう。



腿に肘をつけて手はロクロの中心に。右足ペダルの上、左足台の上。右回転。



ヒツピキ、皮、スポンジ、板、水桶を用意。粘土はよく練り、菊練り仕上げ。



水をつけず、練手の右手側を下へ。斜め下中心に向けたたき、貼付ける。初めて手水。



溝付。土殺し、力は右手付根、左手指先と付根。※力は点で加えるように意識して。





下げるには向こうへ傾け下に少し押す。土取、鉢1個分の粘土を区切る。



親指を深く入れ穴を開け縁を開く。※力の入れ初めと終わりはゆっくり。



引き上。右手親指、人差し指でつねるように下から上に。左手は径決めと縁をつぶす。※爪が伸びていると粘土に引っかかり、危険。

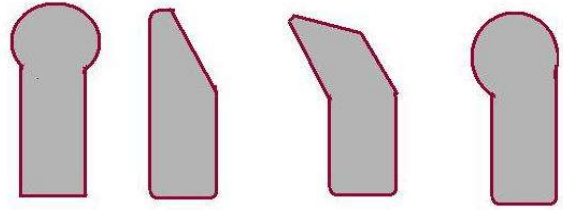


形決め。両手を組み安定させ形を仕上げる。縁に厚さをのこし、縁の形作り。



皮の持ち方。右手の親指と人差し指に濡れた皮を沿わせ、左手で端をつまむ。





皮当て。縁の形を損なわないよう3回転ぐらい。縁には色々な形があります。



ヒツピキは右手で持ち、糸の端は左手。少し噛ませ左手を離し一回転で水平に引く。



手のひらを上にチョキを作る。4点で溝を持ち粘土板に移す。名札をつけて半がわき。



皮を洗い別に。残りの粘土をヘラで取る。スポンジで拭き掃除。粘土水はドベ入れに。



左利きの方は、引き上げ左手、径決め右手。糸切りは左手で持ち向こう側から。

### ～ ロクロ引のポイント ～

- ★まず中心を取る。自転車と同じ、習うより慣れる。
- ★力の入れ始めと終わりはゆっくり。芯がぶれます。
- ★力は面でなく点で。少しの力で成形出来ます。

〒182-0011調布市深大寺北町1-19-1 **深大寺陶芸教室** TEL, FAX042-483-6478





ロクロ削りもロクロ挽きと同様、各産地の伝統的な削り、道具、回転方向、利き手、などにより千差万別です。ここでは、湿台を使いし字カンナ、右回りで解説します。まず中心を取ることが基本になります。ある程度とれなければ、削り仕上げは出来ません。修得に個人差はありますが、繰り返し練習して下さい。



まずカンナを研ぐ、平ヤスリを用意。机の角を利用して固定、押して研ぐ。両刃に。



湿台芯出しの練習。カンナ、スポンジ、水桶用意。湿台底水付てロクロ面とすり合せ。



湿台芯出し。ロクロ面拭き取り。生素地のせ、芯出し繰り返し練習。湿台水引き。



生素地内部の形記憶。芯出し、軽くたたき固定。腿に肘を付けカンナを安定させて。





刃の角度注意。刃先を中心から外へ底面を水平に。高台マーク、中からケズル。



はじき厚さ確認。高台外面取り、内部の形に沿って削り。高台わき仕上げ。高台高さ



調整、中外面取り後上面ケズル。高台面取り後、角つぶす。おもさ、バランス確認。



据わり確認。 必ずサイン。



左手でカンナを持つ場合。

## ～ ロクロ削りのポイント ～

- ★まず中心がとれてから。繰り返し練習して下さい。
- ★カンナがブレないように、腿、肘でしっかり固定。持ち方も工夫。
- ★カンナの刃が素地に当たる角度に注意。素地が柔らかいと寝せ、硬いほど立てる。

カンナ刃を立てると削れる

カンナ刃寝かせると切れる

